

「初等体育」における授業時間外学習

保健体育講座・糸岡 夕里

1. 「初等体育」の概要

「初等体育」の授業は、学校教育教員養成課程および特別支援教育教員養成課程の選択必修として位置づいている科目である。

この科目の履修を通じ、小学校体育科における各種の運動領域（体づくり運動、器械運動、陸上運動、ボール運動、表現運動）の特徴を理解し、小学生の発達段階に応じた指導について理解していくことが期待される。

今年度の受講生は、学校教育教員養成課程および特別支援教育教員養成課程の2回生42名であり、授業概要については表1に示した通りであった。

なお本科目は、各種運動領域別に担当教員が替わるオムニバス形式の授業であり、筆者が担当したのは器械運動（全5回）の領域であった。

表1 「初等体育」の授業展開

日付	回	Aグループ	Bグループ
4/10	①	ガイダンス	
4/17	②	陸上運動 (日野・上田)	ボール運動：ゴール型 (田中)
4/24	③	山越G(雨, 第2体)	山越G(雨, 第1体)
5/1	④		
5/8	⑤		
5/15	⑥	ボール運動：ネット型 (浅井) 第2体育館	体づくり運動 (山本) 第1体育館(雨, ダンス)
5/22	⑦		
5/29	⑧		
6/5	⑨		
6/12	⑩		
6/19	⑪	表現運動 (牛山) ダンス場	器械運動 (糸岡) 第3体育館
6/26	⑫		
7/3	⑬		
7/10	⑭		
7/17	⑮		

【初等体育の目的】

小学校教諭免許状及び幼稚園教諭免許状を取得するための選択必修科目である。この授業では、小学校体育で取り扱われる体づくり運動、器械運動、陸上運動、ボール運動、表現運動について、実技を通して基本的技能を身につけるとともに、学習指導法や安全管理・指導の方法について理解する。

【初等体育の到達目標】

- (1) 体育授業に対して興味・関心をもち、各運動領域の特性を説明できる。
- (2) 各運動種目の技術やルールに関する内容を具体的に説明できる。
- (3) 小学校体育の技能、態度、思考・判断に関する学習指導の方法を身につける。

2. 器械運動の概要

小学校体育科における器械運動の内容はマット運動、跳び箱運動、鉄棒運動の3つからなる。そこで、全5回の授業内容については表2に示した通りであり、4回目の授業までは、筆者が器械運動に求められる内容について指導し、最後の授業では学生による模擬授業を実施した。

表2 器械運動の授業展開

6/19	⑪	マット運動1
6/26	⑫	マット運動2
7/3	⑬	跳び箱運動
7/10	⑭	鉄棒運動
7/17	⑮	模擬授業

模擬授業の実施については、1グループ5名程度とし、マット運動、跳び箱運動、鉄棒運動における各種の技についてグループ内の学生同士重ならないように1つの技を設定する。その技について、5回目の授業までに各自10分程度の指導案を作成することを授業時間外学習として求めた。

なお、指導案の作成にあたっては、①予想されるつまずき、②そのつまずきを改善するための指導法の2点について明確にするよう指導した。

体育授業では、自身のつまずきを周囲から見られることにより、運動に対して否定的な感情をもち、その結果、体育授業に対する学習意欲が低くなり、技能向上につながらず、さらに学習意欲が低くなるという悪循環が生じることがある。そうならないためにも、教師はつまずきに対する適切な指導を実現していくことが求められる。

3. 模擬授業の展開

模擬授業では、各自が作成してきた指導案についてグループ内の5名程度を対象に10分間の実践を行った。グループ全員の実践が終了後、各グループで実践内容についての省察を10分程度行い、筆者による全体指導を行った。

授業後の課題として、以下の4点についてレポート1枚程度のまとめることを授業時間外学習として求めた。

- 自身の計画した指導案を実践し、学習者の様子やねらいに対する達成度はどうであったか、改善すべき点については具体的な改善案を含めて述べて下さい。
- 自身のグループのMVPを選出し、その理由について述べて下さい。
- 全5回の授業において、小学校体育科の器械運動の内容に対する理解はどの程度深まりましたか？以下の4つから選択して下さい。
 - ④とても理解できた
 - ③おおよそ理解できた
 - ②あまり理解できなかった
 - ①全く理解できなかった
- 今回、指導案を作成する際に要した時間および最終課題レポートを作成する際に要した時間、それぞれについて教えて下さい。

4. 器械運動の内容に対する理解度

この授業を通して、器械運動の内容に対する理解度の結果について図1に示した。

受講した学生の全員が理解できたと回答しており、35%の学生が「よく理解できた」と回答していた。「初等体育」の授業では内容が多岐にわたりオムニバス形式で教員が担当することから、限られた時間の中で学生の理解度を高めていくためには、より授業の工夫が求められる。

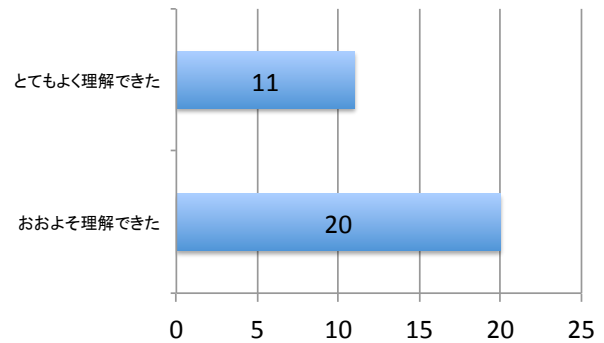


図1 器械運動の内容に対する理解度

5. 授業時間外学習の実際

授業時間外学習に要した時間について図1に示した。

指導案の作成についての平均時間は、予想以上に短い1.36時間という結果であった。最長でも2.5時間という結果であり、作成した指導案を見ていくと、指導案の作成自体に要した時間が回答されており、参考文献等の検索時間は含めていないことが推察され、文献参照の時間を含めると、少なくともあと1時間程度は長く時間をかけていることが考えられた。

また、最終課題レポートについての平均時間は1.15時間という結果であり、ほとんどの学生が、指導案の作成時間より短い時間で書いていた。しかしながら、最長時間は2.5時間と指導案の作成時間と同様であり、2.5時間と回答した学生は、指導案の作成以上に課題レポートの方に時間をかけていた。

指導案の作成、課題レポートに要した時間を合計した際の平均時間は2.51時間であり、「初等体育」における器械運動の授業が全5回であったことをふまえると、まだまだ授業時間外学習の設定が必要なことが明らかとなった。

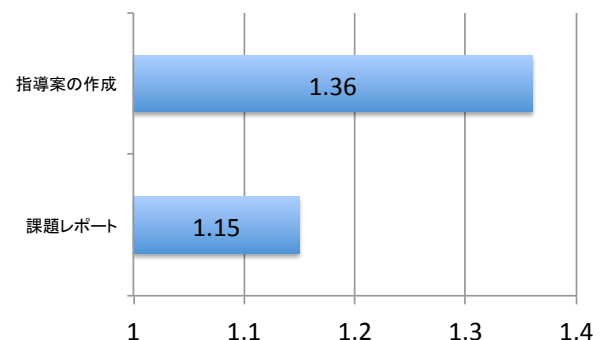


図2 授業時間外学習に要した時間の平均値